

母親と独身青年女子のナルシシズムの違いについて

The difference between the narcissism of mother and single young women

— Kohutのナルシシズム理論の視点から —

From the viewpoint of narcissism theory of Kohut

田中由紀子

(東京成徳大学)

小林 厚子

(東京成徳大学)

Yukiko TANAKA (Tokyo Seitoku University)

Atsuko KOBAYASHI (Tokyo Seitoku University)

要 約

育児期にある母親のナルシシズムの特性を独身青年女子と比較検討する。そのためにはこれまでのナルシシズム人格目録(NPI)が男性向けではないかと指摘されることや、また、ナルシシズムの尊大で誇大的な面だけではなく、Kohutのナルシシズム理論から過敏で脆弱な傷つきやすいナルシシズムについての考慮が必要と考え、質問紙を構成しなおした。結果、青年女子は有意にナルシシズムが高く、また、母親には「評価過敏」という因子が特徴的に表れた。この因子を見出したことは母親の育児態度に関する基礎資料となると考えられる。

キーワード：女性、母親、過敏型、Kohut

woman, mother, hypervigilant type, Kohut

I. 問題

本研究は出産の経験によってその因子や量に変化を生じるという研究結果(細井, 1979, 1981, 1984)をふまえ、育児期における母親のナルシシズムが独身の青年女子と比較して質と量にどのような変化が見られるのかを調査検討することを目的としている。

この目的のためには、これまでのナルシシズム

の測定質問紙を使用するには、二つの点で問題があると思われる。第一に、これまでの質問項目は男性向きのものではないかという指摘がある。ナルシシズムにおける男女差について、従来の国内外の研究では見解が分かれている。Freud, Sは、女性にナルシシズム傾向が高い(1914)としていたが、それ以外では男女差がないとするもの(Raskin & Hall, 1981)は少数で、男性の方が高いとするものが(Akhtar & Thoman, 1982;

Haaken, 1983; Watson, Gristen, Trotter, & Biderman, 1984; Carrol, 1987; 佐方, 1986, 1987; 三原・氏原, 1991; 角田, 1998) 圧倒的に多く、特に「優越感 有能感」の因子について男性の方が高いとする研究結果が多くなっている(小塩, 1998; 三船, 1991; 佐方, 1986, 1987)。また、大石(1987)は、日本特有としながら、男女ではNPIの因子構造に差異があるとしている。自己有能感のほか、まさにナルシスが自らの姿に見惚れたような「身体賛美・没頭」は男性の因子であり、女性の優越性や注目願望は、確固とした能力による有能感によるものではなく、淡い優越感への願望としている。能力を発揮したい、権威をもちたい、統率力がある、自己主張する、などといった社会的存在の積極性を表す特性は、長らく否認されてきた女性にとってのナルシズムとはなりにくい一面があるのではないか。これは欧米に比べて日本では、望ましい性役割を意識し受け入れる傾向が高いからであり、その結果男女においてナルシズムの方向性が違うということが考えられる。つまり、「NPI全体は男性にとって社会的に好ましいとされる項目が多くふくまれており、そういう意味では男性向きの質問紙なのではないかと推察される。」と福田(1989)が指摘するように、男性のNPI得点が高いのは男性の特性に関する項目が多いためであると考えられる。

第二の問題点はナルシズムをどう捉えるかという基本的な問題にある。

元来の「DSM-Ⅲ」に由来する、NPIの質問項目はGabbard, G. O (1989)による無関心型の①他者の反応を意に介さない、②横柄で攻撃的、③自分のことで夢中、④注目的でないといられない、⑤『送話器』はあるが『受話器』がない、⑥他者によって気持ちを傷つけられることに鈍感という一面にのみ注目していたが、彼の指摘するナルシズムの「hypervigilant - 過敏型」を考慮すべきではないか、という視点に立った。Gabbard (1989)によると、過敏型とは①他者の

反応に対して非常に敏感、②抑制がかかっている、恥ずかしがりやで、自分を出さない、③自分よりも他者に注意を向ける、④注目的になるのを避ける、⑤軽蔑や批判の兆候を認めて、他人の話を注意深く見る、⑥簡単に気持ちを傷つけられやすい⑦恥ずかしい、不面目だ、という気持ちになりやすい、として無関心型とは全く逆のタイプとしている。また岡野は(1994)この分類から「過敏型」を「恥の感情が頻繁に体験され、他人から批判され馬鹿にされることに敏感で、ひきこもりがちなタイプ」であると説明し、この二つの型を、自己愛型人格障害の患者群を分類するスペクトラムとした。これに対し、丸田(1995)はこの「無関心型」と「過敏型」の両極は、恥を軸として考えた場合(あるいは、「自己愛は甘えと同じく、健全なものから病的なものまでである」として考えた場合)、自己愛型人格障害を分類するスペクトラムとして考えるより、「振り子の両極」として、「その両極の間に健常者の自己愛の現れがある」として理解する方が、臨床的に妥当、としている。Wink (1991)は、自己愛には誇大性一顕示性の次元と、脆弱性一過敏性の二つの次元があること、そして顕在的自己愛と潜在的自己愛という二つの表現形があることを示しながら、とくに潜在的自己愛は複雑で多面的な構造をしていて測定することは困難であるとし、また中村(2000)も、自己愛が強いといっても、このようにその表現型が対照的に表れることに自己愛を測定することの難しさがある、としている。しかし、丸田が自己愛型人格障害の振り子の揺れは激しいが、健常者の振り子の揺れは両極の中心近くにあって少ない、と説明していることから、健常者の過敏型に関する項目を加えることは可能であると考えた。過敏型は、恥を機軸とする日本人に多いタイプ(中村2000)と考えられ、これに関する項目を丸田(1995)や、中村(2000)の論文から、またWink, P (1991)がKohut, Hの典型的な患者は「過敏型」であることを指摘したことから、彼

の患者の特徴を参考として項目を考えることとした。

上記二点と、さらに女性の自己完結的なナルシズム傾向を幅広くとらえるために、女性のほうが高いとした Freud, S のナルシズムの用語使用を考慮して質問紙を作成した（以後 NPI-h とする）。この質問紙により健康な女性である母親と未婚の青年女子のナルシズムの違いについて検証し、特に母親のナルシズムの特性について考察する。

II. 方法

1. 調査対象

<母親：0才から16才の子どもを持つ母親>

年齢25才～51才、平均年齢35.8 (SD5.1) (有効回答145人) 基本的属性は表1の通り。

表1 母親の基本的属性

| | | 人数 | % |
|-------|-----------|------|------|
| 年齢 | 20～29才 | 13人 | 9.0 |
| | 30～34才 | 45人 | 31.0 |
| | 35～39才 | 63人 | 43.4 |
| | 40～44才 | 6人 | 4.1 |
| | 45～49才 | 13人 | 9.0 |
| | 50才以上 | 5人 | 3.4 |
| 学歴 | 中卒 | 2人 | 1.4 |
| | 高卒 | 38人 | 26.2 |
| | 専卒 | 16人 | 11.0 |
| | 短大卒 | 38人 | 26.2 |
| | 大在 | 5人 | 3.4 |
| | 大卒 | 37人 | 25.5 |
| | 院在 | 5人 | 3.4 |
| | 院卒 | 3人 | 2.1 |
| 仕事 | フルタイム | 10人 | 6.9 |
| | パート | 21人 | 14.5 |
| | 専業主婦 | 96人 | 66.2 |
| | その他(自営など) | 18人 | 12.4 |
| 子どもの数 | 1人 | 101人 | 69.7 |
| | 2人 | 32人 | 22.1 |
| | 3人 | 5人 | 3.4 |
| | 4人 | 3人 | 2.1 |
| | 5人 | 4人 | 2.8 |

<女子大学生>

T大学48人、J大学72人、R大学9人、合計

129人の女子大学生 年齢18才～22才、平均年齢19.25 (SD.6) (有効回答118人)

2. 調査時期

2002年5月～7月

女子大学生については2002年5月、T大学、J大学の授業中に一斉に行った。R大学の女子大生に対しては家族を通じて配布し、その場で回答してもらった。母親については、女子高の同窓会名簿の中から任意に選択して150人に質問紙とその依頼書を郵送。さらに幼稚園児の発達検査に参加した母親等、8月20日までに回収したものをサンプルとして抽出した。

3. 調査内容

①基本的属性(女子大学生一年齢、母親一年齢と職業、配偶者の年齢と職業、子どもの性別と年齢、両親との同居の有無、育てにくいと思われた子どもの有無、出産時の子どもと本人の健康状況)を問うフェースシートと質問項目から成る。

②質問紙の構成

NPI-h

・大石(1987)の行った研究の質問項目

(Raskin & HallのNPI, 1981を邦訳したもの)の中から女性の選択した比率の高かった29項目。

・健常者の過敏型に関するものとして「周囲の人に合わせて気を使う。」「人から言われたことを気にする。」「周囲の人に正しい評価を受けていないと思う。」「周りの人には自分の弱みを見せたくない。」「私には未だ発揮されていない才能があると思う。」の5項目。

・Freud, Sが臨床面で使用した具体的な行動現象の中から「完全主義」「自己満足」に関する項目(福田、1989)17項目。

以上の項目の決定にあたっては担当の教授と心理学研究科の数名と検討を行い、公正概念的に妥当

と思われるものを選択した。女性にたいしては二者択一強制択一法よりも中間選択肢を設けた方が回答しやすいと考え、1. 全くそう思わない 2. あまりそう思わない 3. どちらとも云えない 4. ややそう思う 5. とてもそう思う、の5件法とした。

妥当性の検証のために Rossenberg, M. J の自尊感情についての質問を併せておこなった。小塩 (1997) により NPI と自尊感情、とくに積極的自尊感情との相関が認められている。

Ⅲ. 結果と考察

NPI-h における前得点の平均値は、女子大学生149.5 (SD19.9) 母親135.7 (SD19.6) で、女子大学生の方が有意に高い結果となった (6.6 ** $p < 0.01$)。このことは、青年期が自己への関心を高めて自己に注目する時期であり、現実を見るよりも将来の可能性を模索しつつある時期であることを示している。

(1) ナルシシズムの人格目録への選択率

5件法であるので、母親と女子大学生が「4、ややそう思う」「5、とてもそう思う」の選択率を調べ、また差を比較するためにその人数の χ^2 検定を行った (表2)。項目29の「私は生まれつきリーダーとしての素質を持っている」のみ、双方の選択率が10%を下回っている。項目14「このこという時には私は人目につくことをやってみたい」、27「私は偉い人だと思われる人間になりたい」、41「私は人からいい人だと言われるよりもいい女だと言われたい」では母親のみ選択率が10%以下になっている。また、項目4、7、8、11、13、17、18、21、24、25、27、32、33、35、38、41、42、44、45 (** $p < 0.01$) 6、14、15、18、23、39、40、47 ($*p < 0.05$) については有意に女子大学生の方が選択率が高かった。母親の方が選択率が高かったのは、項目15「私はものごとをやり遂げるために人に頼るといことはめったにしない」のみ有

意差がみられたが ($*p < 0.05$)、項目28「私が言えばどんなことでもみんなが信用してくれる」項目42「私は自分自身を大切にすることが周囲の幸せにつながると思う」そして項目46「私は何事も万全を期したいと思う」はいずれも有意な差とはならなかった。

(2) 項目分析

はじめに、集団別の各項目ごとに平均と標準偏差を求め、天井効果とフロア効果を確かめた。女子大学生にのみ、項目39「私は人から言われたことを非常に気にする」について、天井効果が認められたので除外することとした。

(3) 内的一貫性

次に、全項目についてのI-T相関を行い、項目と尺度得点と相関係数を見求め、その1項目を除外したときの α 係数の変化を参考に女子大学生群について、項目15、40、44を、また母親群について、項目6、15を削除した。母親群の項目45の「回りの人にあわせようとして、自分は無理していると思うことがある。」の相関関係は低かったが、因子に必要な情報をもつとおもわれたので、削除しないこととした。

(4) 因子分析

これらの分析をもとに、残った項目、女子大学生群46項目、母親群47項目について因子分析を行った。その結果、女子大学生は主因子解法で、母親群についてはアルファ因子法による因子抽出を用い、各因子間に相関が認められる場合斜交回転が望ましいとされるのでそれぞれプロマックス回転を行った。その結果、固有地が1.5以上の6因子を得、負荷量が3.5以上の項目を下位因子尺度としたが、どの下位因子尺度にも重要な負荷量を示さなかったか、2以上の因子にまたがって負荷量の大きかったもの、女子大学生9、12、15、20、22、28、32、43、46の8項目が削除され、残り37項目となり、母親群では項目1、5、12、13、22、25、44が削除され、残り40項目となった。それぞれ再度同じ手続きで因子分析を行ったところ、す

表2 ナルシズム的人格目録の選択率(%)

| | 女子学生 | 母親 | χ^2 |
|---|------|------|----------|
| 1. 感受性の鋭さという点では、私は人に負けない | 33.9 | 34.5 | ns |
| 2. わたしは、控えめな人間ということには程遠い人間だと思う。 | 25.3 | 21.4 | ns |
| 3. どんなことでもあえて挑戦するというようなやり方がわたしの性格にあっている。 | 36.8 | 31.0 | ns |
| 4. 私は強い人間だと思われたい。 | 36.4 | 13.8 | *** |
| 5. 私に接する人はみんな、私という人間を気に入ってくれるようだ。 | 15.3 | 17.2 | ns |
| 6. 私はどんなことでも、あまり気がねなどしないで自分の好きなように振舞っている。 | 31.4 | 17.9 | * |
| 7. ゲームをするからには、負けるのはどうしても嫌だ。 | 47.5 | 22.0 | *** |
| 8. どちらかといえば、私は注目される人間になりたい。 | 37.3 | 18.0 | *** |
| 9. 私は必ず成功すると思う。 | 2.0 | 18.0 | ns |
| 10. 私は自分の意見をはっきり言うほうだ。 | 40.6 | 38.6 | ns |
| 11. 私は人々を従わせられるような権限を持ちたいと思う。 | 18.6 | 6.2 | ** |
| 12. 私には、人の気持ちをずばり読み取る力がある。 | 25.4 | 23.5 | ns |
| 13. 世間が見て、かなりの生活をしたいと思う。 | 39.0 | 19.7 | ** |
| 14. ここというときには、私には人目に説くことを進んでやってみたい。 | 22.0 | 9.0 | * |
| 15. 私はものごとをやり遂げるために、人を頼るということめったにしない。 | 15.3 | 24.9 | * |
| 16. 人は誰でも私の話を喜んで聞きたがる。 | 5.0 | 6.2 | ns |
| 17. 私は、人が私のために何かしてくれるのを期待している。 | 32.2 | 10.4 | *** |
| 18. 欲しい物は極力手に入れてしまうほうだ。 | 37.3 | 26.2 | * |
| 19. 私は、人からほめられることを望んでいる。 | 67.0 | 38.6 | *** |
| 20. 自分自身の気持ちに忠実に生きるということが、まず重要である。 | 67.8 | 61.4 | ns |
| 21. 私は支配欲が強いほうだと思う。 | 35.6 | 13.1 | *** |
| 22. 私は人より先に流行を取り入れるのが好きだ。 | 22.8 | 18.0 | ns |
| 23. 人に好かれるのは、私にどこか魅力的なところがあるからだと思う。 | 36.5 | 22.8 | * |
| 24. 私は鏡を見るのが好きだ。 | 31.4 | 17.3 | ** |
| 25. 私には注目の的になってみたいという気持ちがある。 | 37.3 | 12.4 | *** |
| 26. これまでの私は自分の思い通りにやってきたし今後もそうしたいと思う。 | 34.8 | 38.6 | ns |

| | 女子学生 | 母親 | χ^2 |
|--------------------------------------|------|------|----------|
| 27. 私は偉い人だと思われる人間になりたい。 | 23.7 | 6.2 | *** |
| 28. 私が言えば、どんなことでもみんな信用してくれる。 | 7.6 | 11.7 | ns |
| 29. 私は生まれつき、リーダーとしての素質を持っている。 | 7.6 | 8.3 | ns |
| 30. 私は一日の生活を自分が決めたとおりに過ごしたい。 | 48.3 | 45.5 | ns |
| 31. 私は、人の価値観に左右されるのは絶対に嫌だ。 | 53.4 | 46.2 | ns |
| 32. 私はいつも自分の事を考えているほうだと思う。 | 46.6 | 24.2 | *** |
| 33. 私は主導権をもつのが好きだ。 | 26.3 | 11.0 | ** |
| 34. 私は自分だけの時間を持っていたい。 | 80.5 | 67.6 | *** |
| 35. 私は自分を犠牲にするような生活は考えられない。 | 42.4 | 15.2 | *** |
| 36. 私はたとえ身近なもののためでも自分の気持ちを優先させる方である。 | 17.0 | 10.4 | ns |
| 37. 私は毎日の服装に気を使っている。 | 49.1 | 48.9 | ns |
| 38. 私は自分のペースを極力守る。 | 50.9 | 29.6 | *** |
| 39. 私は人から言われた事を非常に気にする。 | 74.6 | 59.3 | * |
| 40. 私は、周囲の人から正しい評価を受けていないと思う。 | 16.1 | 6.9 | * |
| 41. 私は人から「いい人だ」と言われるより「いい女」だと言われたい。 | 25.4 | 6.2 | *** |
| 42. 私は、自分自身を大切にすることが周囲の幸せにつながると思う。 | 34.7 | 47.9 | ns |
| 43. 私のパートナーはいつも私のことを考えて行動してほしい。 | 39.8 | 36.6 | ns |
| 44. 自信をもつためには美容整形をしてもいいと思う。 | 40.7 | 20.7 | *** |
| 45. 周りの人に合わせようとして、自分は無理していると思うことがある。 | 66.1 | 33.1 | *** |
| 46. 私は何事も万全を期したいと思う。 | 51.7 | 58.6 | ns |
| 47. 私には、まだ発揮されていない能力があると思う。 | 50.0 | 35.4 | * |
| 48. 周りの人には、自分の弱味をみせたくない。 | 46.7 | 45.5 | ns |
| 49. 外見に対するほめ言葉に敏感であると思う。 | 40.7 | 29.0 | † |

† p<.1 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

すべての項目が残り、Cronbachの α 係数はそれぞれ.8765（女子大学生）.8913（母親）の高い数値を得た。これによって、健常者を対象にしたナルシズムの測定においては顕示型とされるものと過敏型とされるもの両方を質問紙にすることが可能であることが確かめられたといえる。両群とも6因子を抽出し、その項目の示す特徴からそれぞれの因子を解釈し、命名を試みた。

<女子大学生>

因子1は、全分散の20.2%でかなり大きく寄与しており、主導権をもつこと、支配したり統率したりすることへの自信や願望と他者からの注目や賞賛を求めて優越感をもつことを望む項目と負荷しているので「支配・優越願望」とする。因子2は、鏡を見たり服装に気を使ったりの外見に対する重視や、自分の女性的な魅力にたいする自信の項目が負荷しているので「女性性魅力願望」とする。因子3は、周囲に気兼ねせず、自分の意見を主張する項目が負荷しているので、「自己主張」とし、因子4は、弱点を悟られずに強者もしくは勝者であると見られたいし、挑戦もするという姿勢をもち、さらに注目を集めたいという願望を示唆しているので「優者・注目願望」とした。また因子5は自己犠牲を拒否し、自分を優先させる因子であるので「利己主義」と命名し、因子6は、他者の価値観や干渉を排除し、自分の思った通りの生活を実行する態度や願望に関係するので、「自己中心」と命名することにした。

<母親>

因子1は、全分散の20.88%に寄与している。この因子は注目されること、権威や主導権をもつこと、支配することを望み、強くえらい人間と思われたいという項目に負荷しているため、「注目・権威願望」と命名した。9.90%に寄与する因子2は、自分のペースを守り、他者より自己を積極的に優先する生活を志向する態度であるので「能動的自己中心性」とし、7.54%に寄与した因子3は、女子大学生と同様、女性的な魅力願望の項目に負

荷しているので、「女性性魅力願望」とした。4.82%の寄与の因子4は、他者が自分に対してしてくれたり、期待してくれたり、ほめてくれるのを受身的に望んでいる。結局その姿勢は、自分を中心にした思考方法であるので、「受動的自己中心」と命名した。因子5は4.44%に寄与しており、「周囲の人に気を使う」「周囲の人の評価には不満」「外見のほめ言葉に敏感」「自分の弱味を見せたくない」という評価に敏感で自己を防衛する下位項目に負荷していることから、「評価過敏」とした。最後の因子6は、全分散の4.12%に寄与し、何事も万全を期し、人から何かと言われたくない項目と、自分の能力を確信する態度から、「完全主義」と命名することにした。これらのことから、細井の研究結果が示すとおり、年齢や出産の経験、等によってナルシズムの量的変化がおきるものとしてそれぞれの因子分析を行ったが、因子の内容や、項目に移動があり、ナルシズムの質的な変化がおきている可能性が考えられた。母親群で、特徴的なのは、因子5の「評価過敏」と因子6「完全主義」である。「評価過敏」は女子大学生の因子3の「自己主張」と裏腹な命名となったが、女子大生群の方は因子1と正の関係にあるが、「評価過敏」は、因子1と負の相関関係にある。他者の評価に過大に敏感となり、それに不満をもちながらも弱点をさとられたくない、外面では平静を装いながら、内面では鬱積するものを隠し持つことを表す因子といえる。この因子は因子6「完全主義」とも弱い負の相関関係であり、また、その他の因子との相関も極めて低いところから独立した因子であると考えられる。「完全主義」は他の評価を基準にしていることは「評価過敏」と共通しているが、漠然とした評価への不安ではなく、積極的に批判や非難を避けようとする志向性であり、自己の能力や行動に自信をもっているところに相違点がある。この因子は「権威・注目願望」や「自己中心」に関わる因子と相関関係にあり、「評価過敏」とは負の関係にあった。女子大

学生の因子5「利己主義」と、因子6「自己中心」は、母親群における因子2「能動的自己優先」と殆んど同じ下位項目からなる。しかし、女子大学生群においてはこの二つの因子は負の相関にあり、「自己中心」は因子4「優者・注目願望」と相関がみられることが興味深い。因子分析の結果は表3-1, 2のとおりである。母親の「評価過敏」の因子を構成している質問項目45) 周りの人にあわせようとして自分は無理していると思うことがある、40) 私は周囲の人から正しい評価を受けていないと思う、49) 外見に対するほめ言葉に敏感である、48) 周りの人には自分の弱みを見せたくない、に対して女子大学生群はいずれも母親群よりも高得点を取っている。しかし無関心型の顕示性のナルシズムが高い者にも積極的に選ばれているため、特化されたグループとしての因子を構成しなかった。これに反して母親群ではひとつのまとまった因子として表れている。これらのことが母親の育児態度に何かしらの影響を与えているのではないかとも考えられる。

< 自尊心との関係 >

自尊心は、自己概念と結びついている自己の価値と能力の感覚（遠藤, 1992）と定義されている。ナルシズムと自尊心は自分自身に対する肯定的感覚という点で類似した概念であることから（小塩, 2001）この自尊心と正の相関がある、という先行研究がある（Emmons, 1984; 小塩, 1997, 1998）一方、「ナルシズムは自尊心の不安定性に関係している、」という研究結果もある（小塩, 2001）。本研究では質問紙が、健康なナルシズムを測定しているものとして、自尊心との相関を検討するため、Rosenberg, M, Jの自尊心尺度を用い、NPI-hとの関係をみた。表4に示すとおり、自尊心はナルシズムと反対に母親群の方が有意に高い結果となった（7.86 ** $p < 0.01$ ）。自尊心の尺度を因子分析した結果、因子「肯定感」と「否定感」の2因子が得られた（項目7と8を削除）（主因子法、バリマッ

クス回転法）。母親のナルシズムは、特に自尊心の肯定感の因子得点との相関が高いことから（.435*** $p < 0.001$ ）、（「色々な良い素質をもって」「物事を人並みにはうまくやれる」「少なくとも人並みには価値のある人間である」「自分に対して肯定的である」）母親群の成熟の度合いが差として表出したものであり、現実の生活に根付いた自己の等身大のナルシズムと、家庭を構えていることの安定した自信が窺える。一方、女子大学生は、自尊心の揺らぎをもちつつナルシズムは高いという、青年期特有の不安定な状況がよく見て取れる。小塩（2001）は、「注目・賞賛欲求」の高いものは、自尊心の基盤となる自己像が不安定であるため、日常の様々な経験をする中で自尊心の維持が難しく、自尊心が低下しやすくなると考えられるとし、また自己愛傾向の下位側面の中には日常の自尊心を高める要因になるものと、抑制する要因となるものが存在することを指摘している。本研究では健康なナルシズムを測定したものであり、ナルシズムを自己への注目と解釈した場合、自尊心を抑制するものの存在を考慮してもなお自尊心との相関は認められるものとし自尊心の合計点数の相関関係を検定した結果、女子大学生群、母親群の双方ともナルシズム得点との有意な相関がみられ（** $p < 0.01$ ）、質問紙の併存的妥当性が裏づけられたものとする（表4）。

IV. これからの課題

独身青年女子と母親を比較することにより母親のナルシズムの特性を得た。このことは母親の育児態度の基礎的な資料となりうると思う。しかし今回の研究では独身青年女子は女子大学生に限られている。母親と比較するには、さらに幅広く、独身女性を対象とすることが必要である。さらに、結婚自体がナルシズムに及ぼす影響を排除するため、子どもの無い既婚女性と、母親となっ

表 3-1 女子学生の因子負荷量

| Item | F1 | F2 | F3 | F4 | F5 | F6 | 共通性 |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| (1、支配・優越願望 α 係数 .8710) | | | | | | | |
| 33)私は主導権をもつのが好きだ。 | 0.930 | -0.173 | 0.091 | -0.124 | -0.216 | -0.026 | 0.712 |
| 27)私は偉い人だと思われる人間になりたい。 | 0.790 | -0.117 | 0.006 | 0.089 | 0.000 | 0.027 | 0.654 |
| 17)私は、人が私の為に何かしてくれるのを期待している。 | 0.707 | -0.071 | -0.209 | -0.123 | 0.160 | 0.043 | 0.593 |
| 21)私は支配欲が強い方だと思う。 | 0.696 | 0.230 | 0.004 | -0.003 | 0.016 | -0.045 | 0.531 |
| 11)私は、人々を従わせられるような権威をもちたいと思う。 | 0.651 | -0.073 | 0.035 | 0.176 | -0.039 | 0.141 | 0.659 |
| 29)私は生まれつき、リーダーとしての素質を持っている。 | 0.575 | -0.033 | 0.234 | 0.000 | -0.188 | 0.152 | 0.532 |
| 13)世間から見て、かなりの生活をしたいと思う。 | 0.525 | 0.159 | -0.060 | 0.042 | 0.004 | 0.012 | 0.500 |
| 47)私にはまだ、発揮されていない能力があると思う。 | 0.495 | 0.174 | -0.179 | 0.074 | -0.192 | -0.025 | 0.579 |
| 14)ここというときには、私は人目につくことを進んでやってみたい。 | 0.464 | 0.194 | -0.008 | 0.196 | -0.093 | -0.087 | 0.595 |
| 19)私は人、から誉められることを望んでいる。 | 0.432 | 0.132 | -0.130 | 0.191 | 0.117 | 0.007 | 0.577 |
| 18)欲しい物は極力手に入れてしまうほうだ。 | 0.407 | 0.128 | 0.023 | -0.217 | 0.256 | 0.138 | 0.446 |
| 01)感受性の鋭さという点では、私はひとにまけないものを持っている。 | 0.395 | 0.045 | 0.371 | -0.022 | -0.059 | -0.021 | 0.585 |
| (2、女性性魅力願望 α 係数 .7374) | | | | | | | |
| 37)私は毎日の服装に気をつけている。 | -0.147 | 0.798 | -0.258 | -0.165 | -0.039 | 0.067 | 0.557 |
| 23)人に好かれるのは、私にどこか魅力的なところがからだと思う。 | -0.098 | 0.670 | 0.056 | 0.066 | 0.072 | -0.013 | 0.579 |
| 05)わたしに接する人はみんな、私と言う人間を気に入ってくれるようだ。 | -0.220 | 0.654 | 0.197 | 0.122 | -0.166 | 0.059 | 0.584 |
| 16)人は誰でも私の話を喜んで聞きたがる。 | 0.004 | 0.594 | 0.173 | -0.098 | -0.076 | -0.009 | 0.580 |
| 24)私は鏡を見るのが好きだ。 | 0.295 | 0.586 | -0.021 | -0.195 | 0.085 | -0.154 | 0.581 |
| 41)私は人から「いい人だ」と言われるより「いい女だ」と言われたい。 | 0.128 | 0.407 | -0.239 | -0.037 | 0.001 | 0.108 | 0.360 |
| 42)私は、自分自身を大切にすることが周囲の幸せにつながると思う。 | -0.062 | 0.395 | 0.008 | -0.065 | -0.112 | 0.111 | 0.403 |
| (3、自己主張 α 係数 .5061) | | | | | | | |
| 02)私は、控えめな人間ということには程遠い人間だと思う。 | 0.097 | -0.228 | 0.812 | 0.453 | 0.137 | -0.224 | 0.499 |
| 45)周りの人に合わせようとして、自分は無理していると思う事がある。 | 0.270 | -0.058 | -0.636 | 0.066 | -0.178 | 0.016 | 0.638 |
| 06)私はどんなことでも、あまり気がねなどしないで自分の好きなように振舞っている。 | -0.196 | 0.006 | 0.625 | 0.066 | 0.246 | 0.068 | 0.510 |
| 10)私は自分の意見をはっきり言う方だ。 | 0.166 | -0.025 | 0.531 | 0.047 | 0.021 | 0.075 | 0.524 |
| 03)どんなことでもあえて挑戦するというようなやり方が私の性格にあっている。 | -0.096 | 0.140 | 0.431 | 0.352 | -0.132 | 0.000 | 0.501 |
| 26)これまでの私は自分の思いどおりにやってきたし、今後もそうしたいと思う。 | 0.298 | 0.106 | 0.377 | -0.218 | 0.047 | 0.299 | 0.476 |
| (4、優者・注目願望 α 係数 .7547) | | | | | | | |
| 48)周りの人には、自分の弱味を見せたくない。 | -0.106 | -0.217 | -0.080 | 0.730 | 0.001 | 0.182 | 0.417 |
| 04)私は強い人間だと思われたい。 | 0.092 | -0.007 | -0.067 | 0.593 | 0.032 | -0.048 | 0.541 |
| 08)どちらかと言えば、私は注目される人間になりたい。 | 0.234 | 0.090 | 0.218 | 0.546 | 0.115 | -0.099 | 0.745 |
| 07)ゲームをするからには、負けるのはどうしても嫌だ。 | 0.094 | -0.094 | 0.091 | 0.438 | 0.077 | -0.910 | 0.498 |
| 25)私には、注目の的になってみたいと言う気持ちがある。 | 0.279 | 0.139 | 0.152 | 0.406 | 0.225 | -0.080 | 0.730 |
| (5、利己主義 α 係数 .6377) | | | | | | | |
| 35)私は、自分を犠牲にするような生活は考えられない。 | -0.199 | -0.082 | 0.139 | 0.154 | 0.759 | 0.093 | 0.564 |
| 36)私はたとえ身近なもののためでも自分の気持ちを優先させる方である。 | 0.045 | -0.167 | 0.254 | -0.022 | 0.649 | 0.069 | 0.467 |
| 49)外見に対するほめ言葉に敏感であると思う。 | 0.320 | 0.295 | -0.113 | 0.038 | 0.408 | -0.071 | 0.615 |
| (6、自己中心 α 係数 .5578) | | | | | | | |
| 38)私は、自分のベースを極力守る。 | 0.031 | 0.114 | -0.052 | -0.141 | 0.098 | 0.628 | 0.420 |
| 30)私は、一日の生活を自分が決めたとおりに過ごしたい。 | 0.075 | 0.076 | -0.126 | 0.223 | -0.009 | 0.494 | 0.368 |
| 34)私は自分だけの時間を持っているたい。 | 0.120 | -0.113 | -0.061 | 0.215 | 0.163 | 0.476 | 0.429 |
| 31)私は、ひとの価値観に左右されるのは絶対に嫌だ。 | -0.179 | 0.105 | 0.202 | 0.089 | 0.024 | 0.454 | 0.498 |
| 因子抽出法：主因子法 | 1.000 | 0.472 | 0.508 | 0.055 | 0.194 | 0.020 | |
| 回転法：プロマックス法 | | 1.000 | 0.397 | 0.236 | 0.091 | 0.053 | |
| | | | 1.000 | 0.103 | -0.049 | 0.026 | |
| | | | | 1.000 | -0.347 | 0.391 | |
| | | | | | 1.000 | -0.210 | |
| α 係数 | | .8815 | | | | | 1.000 |

母親と独身青年女子のナルシシズムの違いについて

Table 3-2 母親のNP1-h 因子負荷量

| Item | F1 | F2 | F3 | F4 | F5 | F6 | 共通性 |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| (1、注目・権威願望 α 係数 .8843) | | | | | | | |
| 8)どちらかといえば、私は注目される人間になりたい。 | 0.800 | -0.026 | 0.030 | -0.010 | 0.117 | -0.061 | 0.720 |
| 11)私は人々を従わせられるような権威をもちたいと思う。 | 0.728 | -0.065 | -0.037 | 0.155 | 0.163 | -0.147 | 0.576 |
| 14)こことうときには人目に付く事をすすんでやってみたい。 | 0.672 | -0.067 | 0.075 | 0.163 | 0.250 | -0.084 | 0.662 |
| 33)私は主導権を持ちたい。 | 0.655 | 0.364 | -0.001 | -0.123 | 0.111 | -0.063 | 0.599 |
| 7)ゲームをするからには負けるのはどうしても嫌だ。 | 0.636 | 0.051 | -0.175 | -0.057 | 0.147 | 0.106 | 0.548 |
| 29)私は生まれつき、リーダーとしての素質を持っている。 | 0.617 | 0.063 | 0.112 | 0.051 | -0.066 | 0.040 | 0.652 |
| 2)私は控えめな人間ということには程遠い人間だと思う。 | 0.616 | -0.092 | -0.151 | -0.073 | 0.154 | -0.117 | 0.517 |
| 10)私は自分の意見をはっきり言う方だ。 | 0.533 | -0.750 | 0.120 | -0.267 | -0.455 | -0.139 | 0.635 |
| 3)どんなことでもあえて挑戦するというやり方が私の性格にあってる。 | 0.512 | -0.092 | 0.008 | -0.065 | -0.153 | -0.163 | 0.494 |
| 21)私は支配欲が強い方だと思う。 | 0.474 | -0.020 | -0.065 | 0.328 | -0.010 | 0.074 | 0.604 |
| 4)私は強い人間だと思われたい。 | 0.470 | -0.190 | 0.298 | -0.065 | 0.006 | -0.032 | 0.447 |
| 18)欲しい物は極力手に入れてしまうほうだ。 | 0.464 | 0.279 | -0.080 | 0.254 | 0.053 | -0.109 | 0.548 |
| 27)私は偉い人だと思われる人間になりたい。 | 0.461 | -0.005 | -0.163 | 0.245 | 0.063 | 0.346 | 0.554 |
| 9)私は必ず成功すると思う。 | 0.457 | -0.038 | 0.274 | -0.068 | -0.055 | 0.258 | 0.595 |
| (2、能動的自己中心 α 係数 .8041) | | | | | | | |
| 38)私は、自分のペースを極力守る。 | -0.023 | 0.688 | 0.091 | -0.085 | 0.024 | -0.031 | 0.599 |
| 35)私は自分を犠牲にするような生活は考えられない。 | -0.072 | 0.605 | 0.258 | 0.174 | 0.002 | -0.171 | 0.657 |
| 30)私は、一日の生活を自分が決めたとおりに過ごしたい。 | 0.019 | 0.530 | 0.066 | -0.079 | 0.190 | 0.341 | 0.557 |
| 32)私は、いつも自分の事を考えているほうだと思う。 | -0.030 | 0.496 | 0.036 | 0.240 | 0.015 | 0.013 | 0.548 |
| 31)私は、人の価値観に左右されるのは絶対に嫌だ。 | -0.031 | 0.493 | 0.202 | -0.194 | -0.092 | 0.018 | 0.335 |
| 42)私は、自分自身を大切にすることが周囲の幸せにつながると思う。 | -0.021 | 0.461 | -0.105 | 0.207 | -0.208 | 0.168 | 0.441 |
| 26)これまでの私は、自分の思い通りにやってきたし、今後も そうしたいと思う。 | 0.286 | 0.450 | -0.177 | 0.041 | -0.313 | 0.049 | 0.522 |
| 20)自分自身の気持ちに忠実に生きるということがまず重要である。 | 0.090 | 0.450 | -0.106 | -0.173 | -0.210 | 0.217 | 0.476 |
| 34)私は自分だけの時間を持っていたい。 | -0.383 | 0.448 | 0.281 | 0.136 | -0.064 | 0.109 | 0.559 |
| 36)私はたとえ身近なもののためでも自分の気持ちを優先させる方 である。 | 0.069 | 0.433 | -0.059 | 0.234 | -0.005 | -0.204 | 0.368 |
| (3、女性性魅力願望 α 係数 .7165) | | | | | | | |
| 24)私は鏡を見るのが好きだ。 | 0.004 | 0.150 | 0.644 | -0.057 | -0.005 | 0.049 | 0.524 |
| 37)私は毎日の服装に気を使っている。 | -0.101 | 0.133 | 0.594 | -0.031 | 0.106 | 0.063 | 0.543 |
| 23)人に好かれるのは、私にどこか魅力的なところがあるからだと思う。 | 0.130 | -0.005 | 0.544 | 0.195 | 0.077 | 0.044 | 0.596 |
| 41)私は人から「いい人だ」と言われるより「いい女」と言われたい。 | -0.002 | 0.100 | 0.481 | 0.163 | -0.179 | -0.105 | 0.497 |
| (4、受動的自己中心 α 係数 .6809) | | | | | | | |
| 43)私のパートナーはいつも私のことを考えて行動してほしい。 | -0.050 | 0.042 | 0.013 | 0.589 | 0.075 | 0.001 | 0.467 |
| 17)私は、人がわたしのために何かしてくれる事を期待している。 | 0.048 | 0.063 | 0.054 | 0.533 | 0.090 | -0.085 | 0.472 |
| 19)私は人から誉められることを望んでいる。 | 0.015 | 0.046 | -0.008 | 0.523 | 0.067 | 0.307 | 0.625 |
| 16)人は誰でも私の話を喜んでききたがる。 | 0.189 | -0.254 | 0.216 | 0.451 | 0.067 | 0.042 | 0.491 |
| 28)私が言えば、どんなことでもみんな信用してくれる。 | 0.059 | 0.018 | 0.079 | 0.426 | -0.307 | 0.162 | 0.524 |
| (5、評価過敏 α 係数 .6351) | | | | | | | |
| 45)周りの人にあわせようとして、自分は無理をしていると思うことがある。 | 0.004 | -0.103 | -0.083 | 0.008 | 0.653 | 0.281 | 0.449 |
| 40)私は周囲の人から正しい評価を受けていないと思う。 | 0.083 | -0.008 | 0.046 | 0.072 | 0.600 | 0.071 | 0.515 |
| 49)外見に対するほめ言葉に敏感である。 | 0.106 | 0.066 | 0.395 | 0.040 | 0.498 | 0.010 | 0.538 |
| 48)周りの人には自分の弱味を見せたくない。 | 0.282 | -0.061 | 0.143 | -0.240 | 0.484 | 0.197 | 0.385 |
| (6、完全主義 α 係数 .5413) | | | | | | | |
| 46)私は何事も万全を期したいと思う。 | -0.065 | 0.080 | -0.013 | 0.010 | 0.243 | 0.654 | 0.444 |
| 47)まだ発揮されていない能力がある。 | 0.120 | -0.060 | 0.251 | 0.030 | 0.143 | 0.477 | 0.509 |
| 39)私は、人から言われた事を非常に気にする。 | -0.107 | -0.028 | -0.055 | 0.237 | 0.317 | 0.394 | 0.498 |
| 因子抽出法：アルファ因子法 | 1.000 | 0.157 | 0.342 | 0.390 | -0.206 | 0.289 | |
| 回転法：プロマックス法 | | 1.000 | 0.331 | 0.231 | 0.058 | 0.153 | |
| | | | 1.000 | 0.321 | 0.141 | 0.239 | |
| | | | | 1.000 | 0.037 | 0.250 | |
| | | | | | 1.000 | -0.219 | |
| α 係数 | .8898 | | | | | | 1.000 |

た女性との比較も試みる必要があると思われ、今後の課題となった。

Kohut (1971) は、ナルシズムは自体愛→ナルシズム→高度なナルシズムとして発達する幅広いスペクトラムをもった心的体性であり、対象愛とは別の発達ラインをもつもので健康な成人にも備わったものとしている。そしてまた、幼少期の自己対象としての親は「鏡自己対象」や「理想化された親イマージ」として大きな役割を果たすとし、この時期の親の反応性の悪さがパーソナリティーに欠陥を生じさせるとしている(1984)。では母親自身のナルシズムのあり方が子どもを育てる上でどのように反映するのか。現代は少子化の時代でありながら育児が困難な時代とも言われ、子ども自身の生きにくさや不適応に関わる親の不適切な育児態度が問題視されることが多くなっている。今回の研究を基礎資料として、健康なナルシズムの再生産を目指すべき親、特に母親の内面に何が起きているのかを考察してゆきたいと思う。

表 4 NPI-h得点と自尊感情の平均値と標準偏差・相関

| | 大学生 | | 母親 | |
|--------|--------|-------|--------|-------|
| | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| NPI 得点 | 149.47 | 19.90 | 135.70 | 19.61 |
| 自尊感情得点 | 29.19 | 6.04 | 34.65 | 5.25 |
| 相関 | .430** | | .221** | |

〈引用文献・参考文献〉

Freud, S. 1914 「ナルシズム入門」フロイト著作集 5 懸田克躬・高橋義孝他訳 人文書院 2000
 Gabbard, G. O. 1989 Tow subtypes of narcissistic personality disorder. Bull. Meninger Clin., 53 527-532
 細井啓子 1978 “女性におけるナルシズム的傾向ナルシズムの研究 3” 日本心理学会大会発表論文集 (日本心理学会第42回大会準備委員会) 第2回 978-979
 細井啓子 1979 “青年期におけるナルシズム的傾向

2 ナルシズムの研究 4” 日本心理学会大会発表論文集 (日本心理学会第43回大会準備委員会 (慶応義塾大学文学部心理学研究室内)) 第43回 513
 細井啓子 1981 “ナルシズム的傾向に関する発達的研究 (1) —妊娠婦について— 心理学研究 (日本心理学会) 52 (1) 38-44
 細井啓子 1984 “ナルシズム的傾向にたいする発達的研究 (3) —成人期中期の女性について— 心理学研究 (日本心理学会) 113-116
 細井啓子 1985 “性役割評価の研究 (3) —妊娠・出産・子育ての経験と両親および夫との関係について” 日本教育心理学会発表論文集 (日本心理学会第27回総会準備委員会) 第27回総会
 細井啓子 1991 “母性の発達変容の研究 (4) 一 家族関係における産褥部の母性性獲得について” 家族心理学研究 第5巻 第1号 53-65
 角田豊 1993 “共感性と母親から共感されるイメージとの関連 自己対象機能の観点からみた共感性と性差について” 心理臨床学研究 第10巻 第3号 76-81
 角田豊 1998 “共感性と自己愛傾向の関連 共感経験尺度改訂版 (ESSR) と自己愛人格目録 (NPI) を用いて” 心理臨床学研究 第16巻 第2号 129-137
 上地雄一郎 1993 “Self Psychology (kohut 理論) の基礎概念についての臨床的検討 (1) : 自己愛人格障害と自己対象転移について” 総合保健科学 広島大学保健管理センター研究論文集 9, 89-105,
 上地雄一郎 1994 “自己愛人格障害と自己対象転移についての Kohut の概念の検討 : Z氏の症例を通して” 岡山県立大学短期大学部研究紀要 第一巻 115-130
 Kohut, H. 1971 The Analysis of the Self. New York: International Universities Press. 水野信義・笠原嘉監訳『自己の分析』みすず書房 2000
 Kohut, H. 1984 How Does Analysis Cure? Chicago: University of Chicago Press
 本城秀次・笠原嘉監訳『自己の治癒』みすず書房 1995
 金城辰夫・伊藤博子 2001 “自己愛傾向に関する質問紙法的研究” 専修人文論集 第68巻 31-71
 小松貴弘 1992 “ナルシズムに関する一考察

- Kohut のナルシズム論の検討— 広島大学教育学部紀要 第一部(心理学)第41号 199-206
- 丸田俊彦 1995 “自己愛型人格障害” 精神科治療学 10 (3) ; 273-279,
- 三船直子・氏原寛 1991 “青年期の自己愛人格について—実証的研究を中心にして—” 大阪市立大学生活科学部紀要 第39巻 199-213
- 中村晃 2000 “自己愛と対人関係” 自己心理学研究 1巻 73-83
- 小川豊昭 2001 “自己愛型抑うつ”の精神分析的療法” 精神分析研究 45 (4) 359-369
- 小塩真司 1997 “自己愛傾向に関する基礎的研究—自尊心、社会的望ましさととの関連” 名古屋大学教育学部紀要 教育心理学科(名古屋大学教育学部) 44 155-163
- 小塩真司 1998 “自己愛傾向に関する—研究—性役割観との関連—” 名古屋大学教育学部紀要 教育心理学科(名古屋大学教育学部) 45 45-53
- 小塩真司 2001 “自己愛傾向が自己像の不安定性、自尊心のレベルおよび変動性に及ぼす影響” 性格心理学 第10巻 第1号 35-44
- 小此木啓吾 1981『自己愛人間』 朝日出版
- 小此木啓吾・深津千賀子・大野裕 編 1998『精神医学ハンドブック』創元社
- 大石史博 1990 “ナルシズムの心理学的研究(2) 共感性、及び攻撃性との関係について—” 臨床教育心理学研究 16 臨床教育心理学編集委員会編 西宮 関西学院大学臨床教育心理学会 1-5
- 大平秀樹 1989 “自己愛人格と家族関係に関する実証的研究” 家族心理学研究 第3巻 第1号 1-10
- Patalano, F. 1997 Narcissism and hostility. Psychological Reports, 80, 289-290
- Raskin R. E. & Hall, C. S. 1979 Narcissistic Personality Inventory. Psychological Reports, 45 590,
- Raskin, R. E. & Terry, H. 1988 A Principal-Components Analysis of Narcissistic Personality Inventory and further evidence Its Construct Validity. Journal of Personality & Social Psychology, 54, 5, 890-902,
- Smith, B. M. 1990 The measurement of narcissism in Asian, Caucasian, and Hispanic American woman. Psychological Reports, 67,779-785
- 佐方哲彦 1986 “自己愛人格の心理測定—自己愛人格目録(NPI)の開発”— 和歌山県立医科大学進学過程紀要 77-86,
- 佐方哲彦 1987 “自己愛人格目録(NPI)の妥当性に関する研究—Y-G検査およびMMPIとの相関から—” 日本教育心理学第29回総会発表論文集 583-539
- Wink, P. 1991 Two faces of narcissism. Journal of Personality and Social Psychology, 61, 590-597
- 和田秀樹 1999『自己愛の構造』 講談社選書メチエ
- 山本都久 1993 “自己愛人格目録の作成” 富山大学教育学部紀要A 44 101-110

The difference between the narcissism of mother
and single young women
— From the viewpoint of narcissism theory of Kohut —

Yukiko TANAKA (Tokyo Seitoku University)

Atsuko KOBAYASHI (Tokyo Seitoku University)

ABSTRACT

We examine the characteristics of narcissism of mothers in their child-rearing periods and compare it to that of the single young women. The original Narcissistic Personality Inventory (NPI) has been criticized as being male-oriented and inappropriate for female subjects. Furthermore, its emphasis is on the arrogant and "obvious" type of narcissism and ignores the sensitive, vulnerable type as described by Kohut's theory. We used a modified NPI questionnaire designed to correct for these shortcomings, and found that the narcissism score of the young women are higher than those of the mothers. In addition, the "hypersensitivity to evaluation" factor was found to be a unique characteristic of the mothers. These findings give valuable insight into the mothers' attitude towards child care.